

◆ 受け継がれてゆくもの ◆

COVID-19の状況は相変わらず厳しいが、やはり新年度は清々しいものだ。職員室も、人事異動で様変わり。新たな風が吹いてきた。

さて、この春休み。昨年度末のこのメッセージでもお知らせしたように、吹奏楽部が2年振りの定期演奏会を開催した。そこでも触れさせていただいたけれど、私自身、40数年ぶりに自分が高校2年の時吹奏楽コンクールで指揮した、まさに同じ曲を指揮する幸運に恵まれた。こんな偶然があるとはと、とてもありがたく思った。吹奏楽部の生徒の皆さんと顧問のS先生に改めて感謝。

さて、この演奏会。3月1日に卒業した生徒の皆さんが演奏面のみならず、ステージ進行等にも大活躍してくれた。総勢20名。



これだけの人数がステージに並ぶ姿は壮観だ。広いステージに左右一杯になる。最後に現役の生徒から感謝の言葉を伝えるという演出があった。もう涙だらけで、言葉にならない。

2年分の思いがあふれ出た。並んでいた卒業生も涙…。

この演奏会、本校の先生方も多く足を運んでくれた。後日、この演奏会を会場で聴いてくれていた先生が「部活って、こういうものなんだろうね」と話をしてくれた。「こういうもの」に含まれるものは言葉にできないくらいたくさんあると思うけれど、こんな光景がたくさん部の活動で繰り広げられているんだろうな、と想像すると厳しい状況の中に差し込む一筋の光明のように見え、少し心が温かくなる。こんなことも「藤高クオリティ」を形作ってくれていると思う。

さて、昨年7月3日付けのこのメッセージで応援委員会とチアリーダーの練習風景を紹介した。同じような気持ちが、今回の演奏会にも流れていることを痛感する。多くの、そして様々な「受け継がれていくもの」に思いを馳せた。